

他者を発見するZINEシリーズの制作  
本棚を媒介したインタビューと対話を通して

人間空間デザインコース 2011053 田尻佳菜

2023年12月12日 提出

## 要旨

筆者はこれまでの他者との関わりから、空間やあるものを通した行などを他者と自分が共に体験することで、他者と親密になれた実感があり、自身の内的要素ではない「外的要素を媒介した体験を共にする」ことが他者の新たな一面を発見する手がかりとなると考えた。

このような状況で発見することができる内面とは、性格を表す「優しい」などの言葉だけでは表現することができない「曖昧で些細な言語化できない内面部分」を示す。

その一方で、個人の周辺には、内面を形成してきた外部からの影響が可視化されている箇所があると考えた。特に、筆者の趣味でもある読書が、自身の言動に大きく作用しているという実感から、「本棚」に「個人の内面の一部を可視化した集合」としての可能性を見出した。そして、友人にとっての「本棚」及び「本」の存在を探ることが、友人たちの言語化できない内面部分を新たに発見する手掛かりになるのではないかと考えた。

「外的要素を媒介した体験を共にすることが内面を発見するきっかけになる」ということ、「本棚」に「個人の内面の一部を可視化した集合」としての可能性を見出したことから、本制作では「媒介するもの」として「友人が所有する本棚及び本」、「ある共通の体験」として「対話」を設定。この本棚を媒介した対話を「本棚インタビュー」とし、筆者の友人9名を対象にその実施を決定した。

そして、それらをまとめる手法として、個の特色が強く現れるメディア「ZINE」の制作を選択した。ZINEの制作を通して「友人の新たな一面を発見するきっかけづくり」を目指す。

制作にあたり、まず初めに、筆者の読書体験と先行事例から、「本棚」及び「本」の役割についてを考察した。その結果、「本」とは「自分の経験の幅を広げる役割」と「自分の感情を一般化する役割」を担うものであり、それらが集合した「本棚」は「自身の感情や思考の軌跡」、ある時には「自身の主張ともなり得るもの」であると解釈した。

次に、実際に本に関するインタビューを掲載しているメディアの先行事例から、「本棚インタビュー」において効果的なインタビュー方法を模索する。先行事例の記事では、まるで雑談のようなラフな会話が繰り返されていた。事前に準備されたような質問は見当たらず、その場で生まれた興味からの質問によって、本を通して人物そのものの思考を読み取ることができる対談だった。

以上の事例と、本制作におけるインタビュー対象が、筆者の友人という慣れ親しんだ立場の人物であることから、日常生活と変わらないシチュエーションでの雑談に近いインタビューが望ましいと考えた。

本棚インタビューは、「①事前に対象者が所有する本棚の画像を送ってもらう。」→「②筆者が、本棚の画像を見て大まかな質問をいくつか考える。」→「③事前送付してもらった画像を印刷したものを共有しながら、雑談形式で本棚の内容についてインタビューを実施する。」の手順で実施した。

本棚インタビューを通して、これまでインタビュー対象者に抱いていた印象とは異なる印象を受ける「発見」と、インタビューを通して知ったエピソードと、筆者が普段抱い

ていた印象が合致する「再認識」の2点を得ることができた。また、雑談形式のインタビュー方法を取ったことから、本筋から話題が逸れる「話の脱線」が発生し、そこからインタビュー対象者の細かな内面のニュアンスが見えるエピソードを聞くことができた。以上のことから、雑談に近いラフな対話型のインタビューが効果的であったといえる。

また、ZINEの制作では、本に関するインタビューを実施したにも関わらず、それらの情報を直接的に書くのではなく、個人の内面が見えるエピソードを選出し掲載することを心がけ、「個人の内面を発見するメディア」を目指した。本棚インタビューの内容を筆者が再解釈しまとめることで、筆者と友人たちとのパーソナルなZINEシリーズを制作することができた。以上のことから、本棚インタビューZINEシリーズ「ユア本棚スコープ」は、「友人の新たな一面を発見するきっかけづくり」として有効的な制作であると考える。

## 目次

第1章 はじめに.....	1
1.1 背景.....	1
1.2 目的.....	1
1.3 本論文の構成と制作手法.....	2
第2章 本棚と本についての考察.....	3
2.1 筆者が考える「本棚」及び「本」の可能性.....	3
2.2 先行事例から考える「本棚」及び「本」の可能性.....	3
第3章 インタビューについての考察.....	5
3.1 インタビューとは.....	5
3.2 本に関するインタビューの先行事例.....	5
3.2 本研究制作におけるインタビュー方法の決定.....	5
第4章 本棚インタビューの実施.....	6
4.1 本棚インタビューの実施方法.....	6
4.1.1 友人Aへのインタビュー.....	6
4.1.2 友人Bへのインタビュー.....	7
4.1.3 友人Cへのインタビュー.....	8
4.1.4 友人Dへのインタビュー.....	9
4.1.5 友人Eへのインタビュー.....	9
4.1.6 友人Fへのインタビュー.....	10
4.1.7 友人Gへのインタビュー.....	10
4.1.8 友人Hへのインタビュー.....	10
4.1.9 友人Iへのインタビュー.....	11
第5章 「本棚インタビュー」ZINEの制作に向けて.....	12
5.1 ZINEとその有効性について.....	12
5.2 本棚インタビューZINEの制作に向けて.....	12
5.2.1 ZINEの形式.....	12
5.2.2 グラフィックについて.....	13
第6章 本棚を媒介した対話を通して他者を発見する ZINEについての解説.....	14
6.1 本棚インタビューZINEの名称について.....	14
6.2 「ユア本棚スコープ」の内容について.....	14

第7章 制作の振り返りと考察.....	16
7.1 本棚インタビューについての考察 .....	16
7.2 本棚インタビューZINEシリーズ「ユア本棚スコープ」についての考察 .....	17
謝辞.....	17
参考文献 .....	19
付録	

## 第1章 はじめに

### 1.1 背景

筆者はこれまでの他者との関わりから、空間やもの、感情などを、他者と自分が共に体験することで、他者の新たな一面を発見する手がかりとなっていると考えた。日常的な会話の中でも、相手の表情や口調、話の内容など、自身の内から滲み出るものを共有しているといえる。その一方で、特に他者の内面の発見に大きく驚きを感じるのは、イベントや場所などの外の要素を媒介した時であった。例えば、普段は頼りなさげな印象を抱いていた友人が、授業のグループワークではリーダーシップを発揮すること。穏やかな性格だと感じていた友人が、アーティストの音楽ライブでは激しく踊り興奮していたことなどが挙げられる。そして、他者と自分が外的要素を共有した体験を重ね、友人たちの新たな一面を発見するたびに、私は彼らとより親密になれた気がした。

人間の内面は、「優しい」や「気性が荒い」など1つの言葉で形容されることが多い。しかし、ここでの友人に対する「新たな一面の発見」とは、個人の内面に潜む「言語化することができない部分」の現れだと考える。自分自身を含めて、個人の内面を全て理解することは難しい。その一方で、個人の周辺には、その内面を形成してきたいくつかの「外部からの影響」を見ることができると考える。例えば、普段聞いている音楽のプレイリストや、衣服を収納したクローゼット、本棚などは、趣味や触れてきたカルチャーの集合であり、個人から発信される言動には、これらに影響を受けたものが多く含まれている。よって上記のものたちは、「個人の内面の一部を可視化した集合」であるといえるのではないだろうか。

読書が趣味である筆者は、読んだ本の内容が、自身の擬似的な体験や、発言の一部要素となっている実感から、特に本棚に、個人の内面が可視化されていることを感じた。また、読書を通じた文字の読み取りが、自分の言葉で考える力、すなわち想像力を育むことは、言語脳科学を専門とする酒井邦嘉[1]も述べている。このことから、本棚及び本は、個人の内面を形成する上で大きく影響を与えるものであり、友人達にとってのそれらの存在を探ることが、彼らの言語化できない内面の一部を、新たに発見する手掛かりになるのではないかと考えた。本研究制作では、「本棚」及び「本」を媒介した対話を通して、他者の内面を発見するきっかけづくりに挑戦していきたい。

### 1.2 目的

他者と自分が外的要素を共有した体験によって、他者に対して、自分自身の内面を形成する要素が、無意識的に見えやすい状態になると考える。本制作では、「媒介する外的要素」として「友人が所有する本棚、本」、また「共通の体験」として「対話」を設定し、本棚及び本を媒介した他者との対話を「本棚インタビュー」と呼ぶこととする

。筆者の友人数名を対象とした、本棚インタビューを行うことで、友人の新たな一面を発見するきっかけづくりを目的とする。

### 1.3 本論文の構成と制作手法

本制作では、本棚を媒介した対話「本棚インタビュー」の実施から、その内容を「ZINE」としてまとめていくまでの過程を政策として位置付ける。本論文では、制作を行うにあたっての考察と、実際の制作プロセスについてを論じていく。

第1章では、自身の経験から本棚を「個人の内面の一部を可視化した集合」として定義した。そして、本棚及び本を媒介した対話「本棚インタビュー」を行うことで、他者の新たな内面の発見を望むことができるのではないかという考えを示した。また、それらをZINEとしてまとめるという制作手法についても説明した。

第2章では、第1章で述べた「本棚が個人の内面の一部を可視化した集合である」という定義を、より鮮明にすることを目指す。はじめに個人にとっての「本棚」と「本」の役割についてを探るため、自身のこれまでの読書体験についてを再考する。そして、大多数にとっての「本棚」と「本」の役割を探るために、本棚に関して様々な企画を行う書店「Seesaw Books」での事例をもとに考察を行う。

第3章では、本棚インタビューの実践に向けてインタビュー方法についてを考察する。ライフスタイル雑誌「BRUTUS」の本に関する特集号の先行事例から、本研究制作におけるインタビューや制作の手法を決定する。

第4章では、第2章、第3章の結果を踏まえて、実際にインタビューを実施した友人9名とその本棚についての記録を記載する。

第5章では、本棚インタビューの内容を、ZINEとして効果的にまとめていくための形式やデザインなどの手法を考える。

第6章では、第5章で述べた手法をもとに制作した本棚インタビューZINEについての解説を記述する。

第7章では、本制作全体の振り返りと考察、今後の発展について述べていく。

## 第2章 本棚と本についての考察

第1章では、自身の経験から「本棚は個人の内面の一部を可視化した集合である」という考えを述べ、個人の新たな内面を発見するきっかけづくりとして「本棚及び本を媒介した対話」を行うことを示した。このことから、第2章では、個人や多くの人々にとっての「本棚」と「本」の役割や可能性について、考察を行う。

### 2.1 筆者が考える「本棚」及び「本」の可能性

「本棚」及び「本」の可能性を考察するにあたって、実際に自身の本棚と本には、どのような特徴があるのかを再確認するため、所有している全ての本の購入のきっかけと、印象を書き出すこととした。この結果、これまでの筆者の読書体験の中で、本が持つ役割について、強く感じてきたことは、大きく2点にまとめられる。

1つ目は、自身の経験の幅を広げる役割だ。文章を読む際に、頭の中で風景を思い浮かべながら読むことで、本の登場人物たちの経験が、まるで自身の経験のように感じられる。読書によって、何者にもなることができ、擬似的な経験から多くのことを学ぶことができるのだ。

2つ目は、自身がこれまでに経験してきた感情に名前を付けて、一般化する役割である。生活の中で、私たちは多くの感情を抱く。良いことから、悪いことまでと様々だが、筆者はどこか不明瞭で消化することができない感情に、もどかしさや不安を感じることもあった。そのような時に、本を読んでいると、登場人物が感じたことに自分のいつかの感情が合致することがある。以前、自分が感じた感情の消化不良も、本の中で自分以外の誰かに置き換わり、言語化されることで、得体の知れないものでは無くなり、安心感を得ることができた。このことから、本が持つもう一つの役割として感情の一般化があると考えた。

上記で述べた「自分の経験の幅を広げる役割」と「自分の感情を一般化する役割」の2点が、筆者の読書体験から導き出した本の役割である。また、そのような本が集合した自身の本棚は、これまでの感情や思考が納まる軌跡であるといえるだろう。

### 2.2 先行事例から考える「本棚」及び「本」の可能性

次に、自分以外の人々にとって「本棚」や「本」はどのような役割を果たしているかを探るため、先行事例を基にその可能性を考察する。

「本棚」及び「本」の役割を探るための事例として、SeesawBooks[2]「棚オーナー制度」を挙げる。Seesaw Booksは、札幌市北区の新刊書店で、アートブックや専門書、ZINEなど、幅広い商品を取り揃えるユニークな本の数々を取り揃えている。Seesaw Booksでは、ただ本を販売するだけではなく、客が店内の商品の中から好きな本を選び、POPを書く企画「みんなで作るみんなの本棚」や、取り扱っている本に関するトークイベントな



どが頻繁に開催されている。本を購入する、読むといった行為を、より意味のあるものにする手助けのような取り組みが行われている点が、特徴的である。

今回事例として挙げた、SeesawBooksの「棚オーナー制度」とは、店内に備え付けられた本棚の一角を借り、オーナーとなった人が好きな本や自身で作った本などを、好きな価格で販売することができる制度である。

私は実際に店舗を訪れ、棚オーナーのコーナーを見学した。棚のオーナーとなっているのは、札幌市内の小さな出版社や大学のサークル、個人までと幅が広い。哲学書ばかりが置かれている本棚。自身が制作した絵本と共に、愛読書を紹介している本棚。自社で出版している本を置いている本棚など。自身の思想を主張する本棚もあれば、棚オーナーの温かな世界観に癒される本棚もあり、それぞれの本棚からは、面識の無い棚オーナーたちの性格が伺えるようだった。

棚オーナーの方々が、どのように本棚づくりを行ったかは定かではないが、好きな本や普段感じていることに合致する本を選出した結果、本棚は無意識のうちに自身を主張する集合としての役割を持っていったといえる。

## 第3章 インタビューについての考察

### 3.1 インタビューとは

大森によればインタビューとは、次のように定義されている。「実践者や研究者とその活動対象である人々との対話を通じ、人間の心身の様相や人々の生活の営みが生み出す社会や文化について、当事者の見方から理解するために有用なデータ生成手法である。」（大森 2014.64）[3]

### 3.2 本に関するインタビューの先行事例

次に、本に関するインタビューをまとめたメディアの先行事例として、雑誌「BRUTUS」それでも本を読む理由（2022 12.22）[4]を挙げて、有効なインタビューについてを考える。この特集号では、「情報を手に入れる選択肢が加速度的に増えた現代において、本を読むことの醍醐味は、いったいどこにあるのか？」という問いを掲げ、56名に実施したインタビューの内容が掲載されている。

この事例の特徴として、掲載された対話文にインタビュアーらしき人物が見られないことが挙げられる。本に関する対話の企画に集められた2~3名の人々が、持ち寄った本について、互いに語り、質問をすることによって、話をより深い方向へと導いているのだ。そこに事前に決められた質問は存在せず、すでに持ち合わせている対話相手についての情報や、その場で初めて知り、関心を持ったことについてを問うことで、対話が進められていく。

また、もう一つの気づきとして、対話を進めていく中で、単なる本の紹介だけではなく、所有者の思考そのものが語られる場面が多いという点がある。電子書籍が発達した現在で紙書籍を所有する理由や、本を購入した当時の状況が語られる時、その人物の「らしさ」や、初めて知る一面を引き出すことができる。このことから、雑談に近いラフなインタビューは、意図しないところで相手の内面を引き出すことに効果的な手法であると考えた。

### 3.3 本研究制作におけるインタビュー方法の決定

上記の事例と、本研究制作では新たな内面の発見を目指す対象を友人に設定したということ踏まえ、筆者は日常生活と変わらないシチュエーションでの雑談に近い対話によるインタビューが望ましいと考えた。

## 第4章 本棚インタビューの実施

第2章では、「本棚とは個人の内面を可視化したものである」という考えをもとに、自身の読書体験や先行事例を踏まえて、多くの人々にとっての本棚及び本についてを考察。第3章では、本に関するインタビューを取り扱ったメディアの先行事例をもとに、有効的なインタビュー方法についてを探った。第4章では、これらの結果を踏まえて、実際に本棚インタビューを行った際の、気づきについて述べていく。

### 4.1 本棚インタビューの実施方法

第1章で、筆者自身の他者との関わりによる気づきについてを述べたことから、インタビューの対象は、筆者の友人9名（以下、A・B・C・D・E・F・G・H・Iとする）とし、各々が所有する本棚、本についてインタビューを実施した。インタビューの流れとしては、以下の通りである。

- ①事前に対象者が所有する本棚の画像を送ってもらう。
- ②筆者が、本棚の画像を見て大まかな質問をいくつか考える。
- ③事前に送付してもらった画像を印刷したものを共有しながら、雑談形式で本棚の内容についてインタビューを実施する。

所要時間は、平均して1人につき1時間弱であったが、基本的には時間を制限することはせずに、インタビューを行なった。9名のインタビューの記録をまとめたインタビューメモは、付録Iとして巻末に添付している。

#### 4.1.1 友人Aへのインタビュー

2023年6月16日金曜日に、初回となる友人Aへの本棚インタビューを実施した。

Aとは、大学3年生の時、大学の授業のグループワークの班が同じだったことをきっかけに知り合う。絵を描くことやデザインの制作、楽器を弾くことに至るまで、多くの物事に対して真面目に取り組む人柄である。

インタビューを実施するにあたって、①Aが所有する本棚の画像を事前にもらい、②筆者が気になる箇所を自由に選出。以下の5つの質問を準備した。

- (1) 「今昔妖怪大鑑」、「幻獣キャラクターを創る」について
- (2) 雑誌の所有はPOPYEが3冊であるが、毎月発刊される中での購入基準について
- (3) サブスクリプションが発達した今、CDを購入する理由について
- (4) デザイン関連の本について
- (5) ピアノを弾く印象が無いが、ピアノスコアがあるのは何故か



図1 Aのインタビュー内容を記録した用紙

③これらの質問を織り交ぜつつ、雑談形式でAへの本棚インタビューを行う。図1は、インタビューの際に、Aと共有しながら内容を記録した用紙である。

#### 4.1.2 友人Bへのインタビュー

2023年6月19日月曜日に実施。Bとは、高校時代の同級生で、同じ軽音楽部に所属したことをきっかけに出会う。ゆったりとした性格でありながらも、海外への長期留学やライターとしての活動、出版社でのインターンなど、関心のあることに対して精力的に動いていくことができる人物である。

友人Bに対し、筆者が事前に準備した質問は以下の3点である。

- (1) ユニークなタイトルの本「さよならシティボーイ」の購入経緯について
- (2) 友人Bは雑誌が好きであるが、好きになったきっかけについて
- (3) この中で一番読み返している本について

図2は、インタビューの際に、Bと共有しながら内容を記録した用紙である。

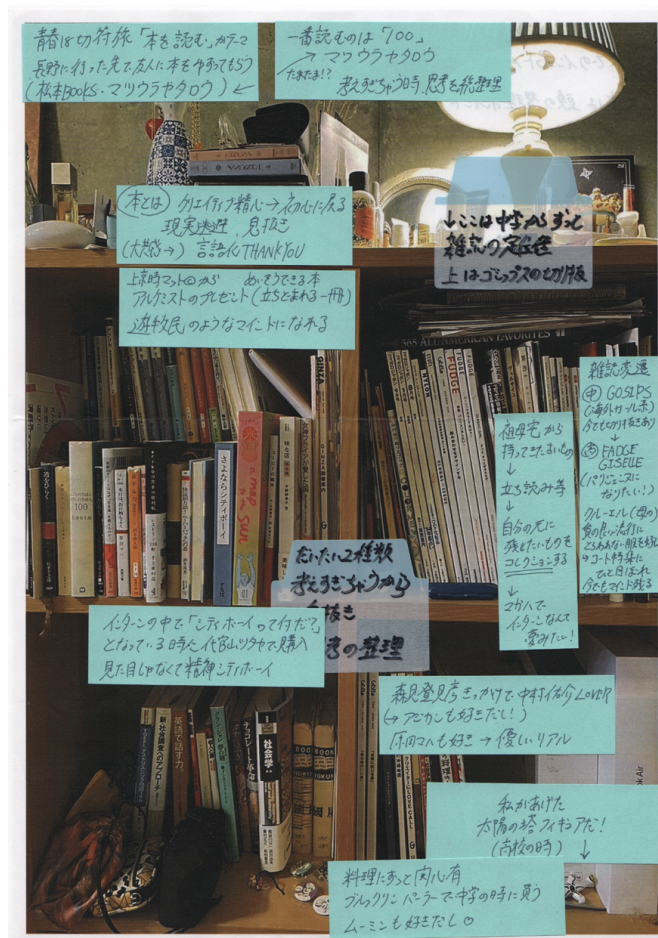


図2 Bのインタビュー内容を記録した用紙

#### 4.1.3 友人Cへのインタビュー

2023年6月20日火曜日に実施。Cは、大学の同級生であり、共に映像コンペに挑戦したことをきっかけに知り合い、仲を深めた。さっぱりとした性格でありながら、友達思いで、人をもてなすことが得意。何事にも丁寧に取り組むことができる人物であり、自分が知りたいと思ったことに対しては、日々勉強を重ねている。

友人Cに対し、筆者が事前に準備した質問は以下の4点である。

- (1) 増田ミリを好きになった理由について
- (2) 石田ゆり子を好きになった理由について
- (3) ブックカバーが裏返しになっている理由について
- (4) エッセイ本が多いことについて

図3は、インタビューの際に、Cと共有しながら内容を記録した用紙である。



図3 Cのインタビュー内容を記録した用紙

#### 4.1.4 友人Dへのインタビュー

2023年6月23日金曜日に実施。Dは、大学の同級生であり、授業のコースが同じだったことをきっかけに出会う。ものごとの良い部分を捉えることが得意で、Dがいるだけで周囲を明るい雰囲気にしてくれる存在だ。

スケジュールの都合から、パソコン上で本棚画像を共有しつつインタビューを行った。友人Dに対し、筆者が事前に準備した質問は以下の2点である。

- (1) 本棚に二冊所有している梅佳代の写真集に出会ったきっかけについて
- (2) 有名人が書いた本が多いことについて

#### 4.1.5 友人Eへのインタビュー

2023年6月23日金曜日に実施。Eとは、大学の同級生であり、同じゼミに所属したことをきっかけに出会う。映画や本が好きで、見たものや聞いたことを自分の中で再解釈することが得意なように見える。

スケジュールの都合から、パソコン上で本棚画像を共有しつつインタビューを行った。友人Eに対し、筆者が事前に準備した質問は以下の3点である。

- (1) 自分の本や借りている本などが混在していることから、購入基準について
- (2) 本を置く場所に自分の中でルールはあるのか
- (3) 友人Eの知識量の多さはどこから来ているのか

#### 4.1.6 友人Fへのインタビュー

2023年7月7日金曜日に実施。Fは大学の同級生であり、コロナ禍で通学できなかった期間に「自分と同じく映像に興味がある人」として筆者が認識。SNSで声をかけたことをきっかけに出会った。天真爛漫で、感情に素直な部分がある一方で、友人に対して熱く思いやりのある人物である。

スケジュールの都合から、パソコン上で本棚画像を共有しつつインタビューを行った。友人Fに対し、筆者が事前に準備した質問は以下の3点である。

- (1) 一人暮らしにも関わらず多くのCDを持っていることについて
- (2) 絵本について
- (3) ファイリングされている者たちについて

#### 4.1.7 友人Gへのインタビュー

2023年10月6日金曜日に実施。Gは、大学の同級生であり、Gが転入してきたことをきっかけに出会った。出会った当初は静かな印象を受けていたが、内に秘められた熱は高く、何事に対しても探究心を持って、真摯に取り組む姿が印象的である。

スケジュールの都合から、パソコン上で本棚画像を共有しつつ、その場で質問をしていく形となった。

#### 4.1.8 友人Hへのインタビュー

2023年11月10日金曜日に実施。Hは、中学時代の同級生であり、友人の友人として出会った。軽快な喋りとその明るさで、面白い人物として捉えられやすい一方で、相手に対する気遣いが多く、優しさ溢れる人物でもある。

友人Hに対し、筆者が事前に準備した質問は以下の3点である。

- (1) 朝井リョウ作品が多いことについて
- (2) 大量の漫画の購入経緯について
- (3) 漫画のアニメ化や映画化について

図4は、インタビューの際に、Hと共有しながら内容を記録した用紙である。

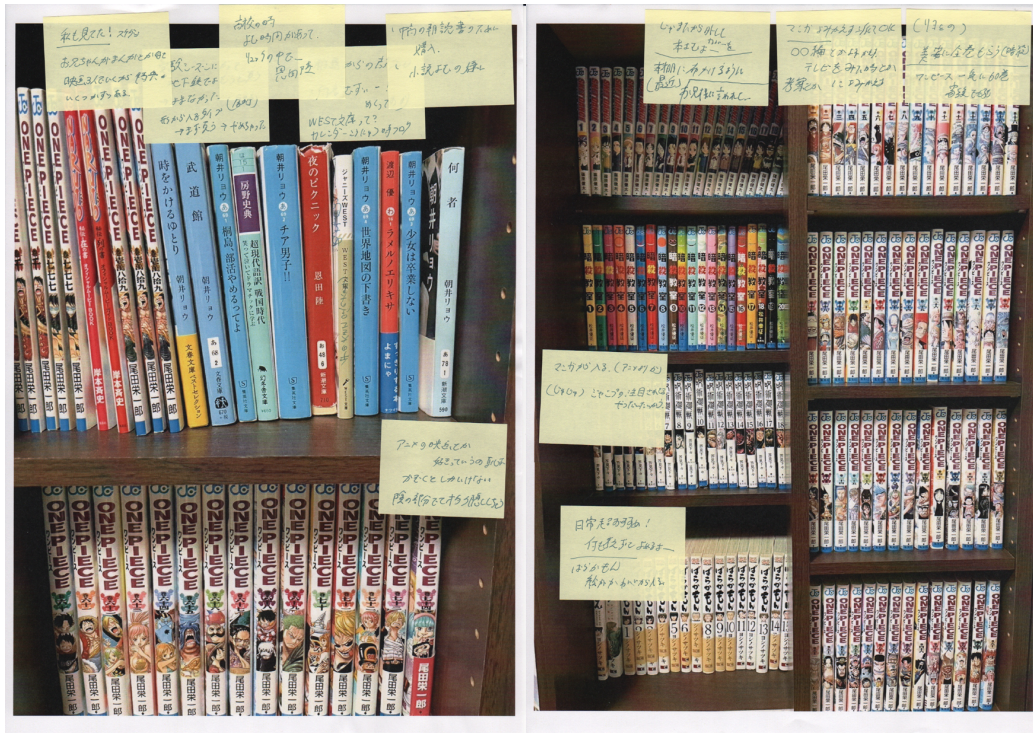


図4 友人Hのインタビュー内容を記録した用紙

#### 4.1.9 友人Iへのインタビュー

2023年11月17日金曜日に実施。Iは小学生の頃からの友人で、筆者が転校してきた時に声をかけてくれたことをきっかけに出会う。オタク気質からか、好きなものごとに対する情熱が高く、一つのものごとに対して、長い期間一途に向き合っている。話が得意で、自分にあった出来事などを面白くわかりやすく話してくれる。

友人Iへのインタビューでは、より相互作用をもたらすことができる対話の実践として、対象者の立場に「並ぶ関係性」を持って取り組むことを目指した。本来であれば、友人Iが生活するフィールドに入り込み調査を行うことが効果的である。しかし、本研究制作においては困難であることから、事前に友人Iが最も好きな本を聞き、実践者である筆者がその本を読んでからインタビューを実施することとした。

遠方に住んでいることからオンラインで画面を共有し行った。友人Iに対し、筆者が事前に準備した質問は以下の3点である。

- (1) さくらももこを好きになったきっかけについて
- (2) 多くの本を所持しているが、どこで購入しているのか
- (3) 漫画の購入経緯について



## 第5章 「本棚インタビュー」 ZINEの制作に向けて

第4章での友人9名を対象とした本棚インタビューの内容について、本制作では、ZINEを制作し、その内容をまとめることとした。

### 5.1 ZINEとその有効性について

ZINEとは、一般的に「個人または少人数の有志が非営利で発行する、自主的な出版物」（野中 2020:6）[5][6]のことであるが、言葉を決めて定義することが難しいほど自由な表現メディアだ。

その始まりは、ある分野におけるファン集団（ファンダム）の人々が作るファン・マガジンを略した「ファンジン」が生まれたことにある。ファンジンが様々なカルチャー活動の発展に貢献していく一方で、何かのファンであることだけに限定しない「ZINE」が登場する。そして、コピー機などの普及により、誰もが手軽に印刷技術に触れることができるようになると、より個人の視点を反映させたパーソナル・ジンと呼ばれるジャンルのZINEも発展した。

現在もジャンルを問わず、様々なZINEを取り扱ったイベントが各地で開催されており、多くの人々にとって、ZINEの創作活動が、心の癒しとなっていることが伺える。

このように、出版物の形やテーマは制作者個人の自由で、自主的に作り、ある狭い範囲のコミュニティ内で共有するという点が、ZINEの特性であると筆者は考える。

本制作において、ZINEを選択したのは、ZINEの特性である「個」の尊重と共有範囲の狭さの2点に、自身の研究テーマの「個人」の内面を発見するという点、インタビュー対象を友人という狭い範囲で定めた点において共通の意識を感じたためである。インタビューの中で自身が感じ取った個人的な印象を、ZINEという形式で丁寧に記録していきたい。

### 5.2 本棚インタビューZINEの制作に向けて

上記より、本棚インタビューの内容はZINEとしてまとめることが有効であると考え、本棚インタビューZINEを制作していく。

#### 5.2.1 ZINEの形式

友人との対話は日常的なものであり、本研究制作の本棚インタビューにおいても、その気軽さを重要視している。このことから、特殊な手法などは使わずに、自身の手によって作ることができるZINEの形式を目指す。

また本棚インタビューの際には、対象者に事前に送ってもらった本棚の画像を共有しながら対話を行った。この状況を再現することを目的に、今回は、一目で内容を確認することができる折パンフレット型のZINEを制作する。

用紙の大きさは、文字情報が見えやすいこと、コンビニエンスストアなどの身近なプリンターで印刷することができる最も大きな用紙サイズであることから、A3用紙を選択する。

## 5.2.2 グラフィックについて

1つのZINEメディアとして完成させるためには、ただインタビューの内容を掲載するだけでなく、対象者それぞれの雰囲気に合わせてグラフィックが必要だと考える。グラフィックのテーマを決めていくにあたって、筆者が本棚インタビューの回答に感じた対象者への印象をまとめた。表1は、対象者9名とそのインタビューの回答に対する印象を簡単にまとめたものである。そして、対象者に対する印象から、キーワードを設定した。それぞれのキーワードに関連するテーマのグラフィックを制作し、よりインタビューの内容を引き立たせるZINEの制作を目指す。

表1 各インタビューに対する印象

	インタビュー回答に対する印象	キーワード
A	デザインや音楽に対しての知識を深掘り、良いものを作るための努力を欠かさない。	深掘り
B	様々な分野から知識や考え方を得て、最終的に自分の経験として消化していく。	コラージュ
C	関心のある事柄や自分の感情についてを、自分なりの解釈で大切に積み重ねている。	蓄積
D	読書を含む1つの行動から得たものを、次の機会へと繋げている。	繋がり
E	幅広い分野の知識を得て、それらを自分の考えと混ぜ合わせて消化している。	混ぜる
F	資料が綺麗に整頓されていたり、長くアーティストを応援するなど、まめさが伺える。	まめさ
G	自分が関心を持ったものについて楽しみながら知識を得て、学びとなっている。	学び
H	漫画が多く、娯楽としての本棚となっている。	娯楽
I	好きなものに対する思いが強く、自分の中で再解釈を楽しんでいる。	追求

## 第6章 本棚を媒介した対話を通して他者を発見するZINEについての解説

第5章で決定したZINEの制作方針をもとに、本棚インタビュー対象者1人につき1冊のZINEを制作した。制作した9冊のZINEは、筆者と各友人との本棚インタビューを記録するものであり、「筆者との対話」そして「本棚インタビュー」という共通項があることから、1つのシリーズものとして扱うことし、それらをZINEシリーズと呼ぶこととする。本項では、本棚インタビューをまとめ、制作した9冊のZINEシリーズについて解説する。

### 6.1 本棚インタビューZINEの名称について

本棚インタビューを通して、筆者は友人たちのまだ見にも内面を覗いたような感覚を味わった。この「覗く」というキーワードから「対象物を見るための機械＝スコープ」を連想し、今回制作したZINEシリーズを「ユア本棚スコープ」と名付けることとした。

### 6.2 「ユア本棚スコープ」の内容について

掲載するインタビューの内容は、本そのものを説明するものではなく、インタビュー対象者個人の内面を感じることができるエピソードを中心に選出した。

誌面のデザインに関しては、第5章の表1に示したキーワードから連想を重ね、9冊それぞれに異なるグラフィックを施した。

以下、友人A～IのZINEで制作したグラフィックの解説である。

友人A：「深掘り」というキーワードから土の中を連想し、これまで友人Aが本によって手に入れてきた経験が土の中に潜む鉱物のように輝いているイメージグラフィックを制作した。

友人B：「コラージュ」というキーワードから、本棚インタビューで得たエピソードに関連する複数のイラストを用意。コラージュ作品のように本棚の画像の周りを装飾するグラフィックを制作した。モノクロのカラーリングに関しては、友人Bがモノクロのフィルムカメラを愛用しており、友人Bにとっての思い出はモノクロであることが多いイメージからである。

友人C：「蓄積」というキーワードから、地層とおもちゃの積み木のグラフィックを制作した。地層のように、長い期間を共にして自分の思考の一部となる本のイメージに、荷物をあまり持たず、本に関しても手放すことが多いという友人Cのエピソードから、積み木のような組み替えが簡単なイメージのものを対比させた。

友人D：「繋がり」というキーワードから、ネックレスや握手、リボンを連想しグラフィックを制作。友人Dが自分で成果に繋げていくという「自主的な繋がり」を自分でビーズを通して作るネックレスに、そして「他者からもらった繋がり」を他者がいることで成り立つ行為である握手で表現している。

友人E：「混ぜる」というキーワードから、泡立て器を使用した料理の様子を連想。様々な分野の本を読み、混ぜり合いながらも最後は自分の解釈に落とし込んでいる印象を、カップケーキを作るシーンで表現した。

友人F：「まめさ」というキーワードからそのまま、豆のイラストを制作した。友人Fが長年熱を持って応援しているというアイドルのCDの周辺には、熱で焙煎されたコーヒー豆のイラストを描いている。

友人G：「学び」というキーワードから、ゆっくりと何かが変わっていく様子を連想し、積雪の風景を描いた。

友人H：「娯楽」というキーワードと、南国の海を連想。そして漫画が本棚の半分以上を占めていたことから、線画のようなタッチでグラフィックを制作した。

友人I：「追求」というキーワードから、カーレースを連想し、グラフィックを制作した。友人Iの勢いのある話し方を想起させる誌面とすることができた。

以上の工夫を踏まえながら、インタビュー対象者A・B・C・D・E・F・G・H・I、それぞれのインタビュー内容をまとめ、制作したZINEシリーズ「ユア本棚スコープ」の紙面データは、付録Ⅱとして巻末に添付している。

## 第7章 制作の振り返りと考察

本棚インタビューZINE「ユア本棚スコープ」シリーズでは、「本棚インタビュー」と「ZINEの制作」の2つの段階を経て、友人たちの新たな内面の発見を目指してきた。本項では、「本棚インタビュー」と「ZINE」について、その効果を振り返り考察する。

### 7.1 本棚インタビューについての考察

本棚インタビューでは、本に関するエピソードを通してインタビュー対象者の内面への「再認識」と「発見」を得ることができた。

「再認識」とは、筆者がこれまで、インタビュー対象者である友人たちに抱いていた印象が、今回の本棚インタビューで語られた初めて知る情報によって、より強固な印象へと進化したことを指す。友人Aの事例では、以前から「ストイックに制作に取り組む人」という印象を持っていたが、実際にインタビューを行うと、デザイン教本の多さや、ブラッシュアップのために本を購入したというエピソードなどから、想像以上の努力を重ねていることを知った。このインタビューによって、友人Aという人物の、制作に対する誠実さをより濃く感じることもできたといえる。また、友人Dからは、一番好きな本に「ドミノ/恩田陸」を選択した理由として、「映画っぽいから」という回答を得たが、これに関しても映画が好きな友人Dの「らしさ」を再認識することができる事例だった。

次に「発見」とは、筆者がこれまで、インタビュー対象者である友人たちに抱いていた印象とは異なる、新たな一面を、本棚インタビューを通して知ることができたことを示す。友人Cの事例では、資格教本のブックカバーが裏返されていることについて質問した際、「外で使う時に、他の人にレベルを知られることが嫌だから。」という回答が返ってきた。筆者は普段、友人Cに対して、周りの人を気にしないある種の余裕を感じていたため、この回答はとても意外なものであった。また、友人Bは、本を読みたくる時を尋ねた際に、「考えすぎる癖があるから、思考をブラッシュアップしたい時に読む。」と回答した。友人Bと筆者は、アートやファッションに関する趣味が近く、よく一緒に美術館などを訪れることがある。その際に、友人Bは独自の視点から感想を話してくれることが多々あったが、もしかすると、日々の思考の癖によって、この視点は生まれていたのかもしれないと推測することができた。この「発見」によって、よく知っているつもりになっていた友人たちへの内面の理解は深まり、さらに愛おしく思えるようになった。

また、本棚インタビューそのものに対する発見として、雑談に近い形式を取ったことによって生まれた「話の脱線」が、インタビュー対象者のより内面的な話を引き出すことができる大切な要素であると気づいた。友人Iのインタビューでは、高校生の頃の話に脱線したことがあった。その際に、友人Iは、先ほどまで話題に上がっていたさくらももこに影響を受け、下書きを用意するほど日直日誌を一生懸命書いていたというエピソードを話してくれた。他のクラスメイトに力を入れて書いている人はおらず、目立つ存在ではない日直日誌であったが、ある日、あまり話したことのないクラスメイトから「友人Iの日直日誌、面白いね」と褒められたという話だった。友人Iは、自分の書いた

ものが意図せぬ人に届き評価を受けた体験が、今でも鮮明に覚えているほど嬉しい出来事だったと言う。始まりは、本棚や本とは全く関係のない話であったが、インタビューの途中にこのような脱線を挟むことで、本来のテーマである本にも関連がある、友人Iの小さな思い出を聞き出すことができた。

以上のことから、インタビュー対象者の内面のニュアンスを引き出していくためには、今回のような雑談形式のインタビュー、そしてそこで発生する話の脱線が効果的であると考察する。

## 7.2 本棚インタビューZINEシリーズ「ユア本棚スコープ」についての考察

制作した「ユア本棚スコープ」の誌面には、一見無機質なものの並びに見える本棚の画像の周辺に、対象者9名のそれぞれの人柄を感じ取ることができるエピソードが並んでいる。本棚及び本に関するインタビューを行いながらも、それらの情報に直接的に触れていないのは、本研究制作において、本棚を媒介した対話による「友人の新たな一面を発見するきっかけづくり」を目的とし、「個人の内面」を中心に掲載したメディアの制作を目指したためである。筆者は本棚インタビューを通して、友人たちに対する「再認識」と「発見」を体感した。そして、本棚インタビューZINEシリーズ「ユア本棚スコープ」の制作においては、インタビューの内容を整理し、筆者自身が再解釈した内容をまとめていくことで、筆者と各友人のためのパーソナルなZINEを制作することができたといえるだろう。

以上のことから、本棚及び本を媒介した対話「本棚インタビュー」とそれらをまとめた本棚インタビューZINEシリーズ「ユア本棚スコープ」の制作は、「友人の新たな一面を発見するきっかけづくり」として有効的な制作であると考察する。

## 7.3 制作の振り返り

本研究では、「本棚インタビュー」と本棚インタビューZINEシリーズ「ユア本棚スコープ」の編集を通して、筆者自身が他者の内面を新しく発見することを目的に、制作を進めてきた。その一方で本制作は、インタビューを受けた対象者が、「他から見た自身」、もしくは「自身も気がつくことがなかった自身の内面」を新たに発見する手がかりとしての可能性も持っているのではないかと考えた。

今回は、本棚インタビューの実施とZINEの制作をもって研究を終えてしまったが、今後は、「ユア本棚スコープ」を用いた本棚インタビュー対象者との更なる対話などを実施することで、その可能性を実感することができるのではないだろうか。

## 謝辞

本制作を進めるにあたり、丁寧にご指導してくださった須之内元洋講師に、心から感謝致します。また、決して短時間ではない本棚インタビューにご協力いただいた友人の

皆様、最後まで明るく励ましてくれたゼミの同期の皆様、本当にありがとうございました。

## 参考文献

[1]脳は紙の本でこそ鍛えられる。言語脳科学で明らかになった読書の知られざる効能（酒井邦嘉）,致知出版社、[https://www.chichi.co.jp/web/20180810chichi\\_contents2/](https://www.chichi.co.jp/web/20180810chichi_contents2/)、最終アクセス2024年1月13日

[2]Seesaw Books/シーソーブックス,instagram、[https://www.instagram.com/seesawbooks\\_n18/](https://www.instagram.com/seesawbooks_n18/)、最終アクセス2023年12月6日

[3]大森純子,斎藤清二,山田富秋,本山方子、2014、インタビューという実践、新曜社、p.64

[4]2022、BRUTUS-それでも本を読む理由-、株式会社マガジンハウス

[5]野中モモ、2020、野中モモの「ZINE」小さなわたしのメディアを作る、株式会社晶文社、p.6

[6]ばるばら,野中モモ、2017、日本のZINEについて知っていることすべて、株式会社誠文堂新光社、319p.



## 付録 I

本棚インタビューのメモ（インタビューー A~I）

## 付録 I-1

### A/インタビューメモ

「今昔妖怪大艦」と「幻獣の創り方」が気になる

→「今昔妖怪大艦」：普通にこういう雰囲気のものが好きで購入したもの。

「幻獣の創り方」：高校美術部で、油絵の作品でモンスター的なものを書いた時、おじさんに「この骨格はおかしい」と指摘される。その際に人ではないものの骨格を勉強しようと思い購入。

デザインの本がたくさんあるね

→制作の参考にするためについ買っちゃうけれど、あまり読んでないものが多い。

「実例つきロゴのデザイン」が一番読む、ロゴを作るときの参考に。

「広報・PR担当者のための～」は”もう知ってるよ！”っていう内容が多かった。

「なるほどデザイン」

→のりたけさんという好きなイラストレーターが表紙を手掛けていたことから購入。

でも、中身のりたけさん要素はあまりなかった...

「日食なつこ ピアノスコア」が見えるけど、弾けたっけ？

→日食なつこさんは一番好きなアーティスト。ライブに行った帰り、自分もピアノが弾きたくなつてアドレナリン購入。楽譜が読めず、ピアノは断念。

きこの帝国のバンドスコア→高校の時に組んでいたバンドでやりたくて購入。

「blender」の本はもしかして大学の課題のために？

→そう。3DCGの授業の時にできなくて焦って購入したけれど、結局違うソフトを使ったからあまり読まなかった。

POPYEが三冊あるけど購入の基準は？

→本屋に行ってパラ見してから購入。POPYEはデザインの実践例として参考にしている。

三冊とも感じが違っている。（写真、絵が多めの号や文字が多めの号など）

シティボーイ2が一番自分のデザインバイブスに合っている。

CDたくさんあるね。音楽サブスクは入っていない？CDを買う理由は？

→サブスクは入っておらず、CDをスマホに取り込んでいる。デジタルリリースのものは購入。

高校時代に友人とCDをよく貸し借りしていた名残で、現在もCD派。多くは一回聞いて終わりかも。

## 付録 I-2

### B/インタビューメモ

雑誌はいつから好き？

→中学くらいから好き（「ゴシップス」、海外ファッションスナップ系の雑誌）

高校では、「FADGE」、「GISELLE」→パリジェンヌに憧れる。

「クルーエル」→コート特集に一目惚れ。

スポーツミックス特集→祖母宅から持ってきた、今も好きで読み返す。

この時に読んだ雑誌から、流行に囚われない質の良いファッションの良さを知る。

雑誌はずっと好きだったから、今出版社でインターンできていることが夢見たい。

タイトルが気になる「さよならシティボーイ」とは？

→「Chitose」ライター時代に特集を組んだ「シティボーイ」について、シティボーイってなんだ？

となっていた。その時に代官山の蔦屋で偶然見かけて購入。エッセイ本で、見た目的なシティボーイ

ではなく、内面のシティボーイを説いている。

森見登美彦作品のカバーはイラストレーターである中村祐介が手掛けている。

中村祐介の塗り絵ブックもあるし、好きなイラストレーターなのか？

→もともと、森見登美彦作品が好きだったことをきっかけに、中村祐介を知り、塗り絵ブックも

購入した。イラスト集として扱っているため、塗ってはいない。

「アルケミスト」

→幼なじみのマットちゃんに、上京する際にプレゼントしてもらった。遊牧民のお話で、色々と考え込んでしまう時に読むと遊牧民的な気持ちになれる。

「旅するラゴス」

→マットちゃんにおすすめされて購入した本。

「ムーミンママのお料理の本」

→中学生の時にブルックリンパーラーで購入。当時の自分にとっては少し高価だったけれど、ムーミンも料理も好きな気持ちが強く購入した。今でも料理は趣味の一つ。

自分にとっての読書とは？

→現実に身を置きたくない時にするもの。瞑想。現実逃避。考え過ぎてしまう癖があるから、思考を整理したい時に読む。

一番読み返している本は？

→「しごとのきほん、くらしのきほん100」/松浦弥太郎

（上記の通り）思考をブラッシュアップしたい時に読み返している。

大学2年生の春に実行した青春18切符ひとり旅。

旅のテーマを「本を読む」に設定し、行く先で会う約束をしている友達などから、いらない本やおすすめの本をもらう。この時、ある友人から、偶然にもよく読んでる松浦弥太郎の本をもらった。

## 付録 I -3

### C/インタビューメモ

持っているものは、こうなろう、なりたい（指針や理想）と思っている本が多い。  
自分に似ている本ではないという自負がある。

エッセイが多いね

→他人が考えていることに興味がある。

石田ゆり子さんのどこが好きなの？石田ゆり子「Lily 日々のカケラ」

→センス、部屋、他人を気にしないなどの考え方が好き。寝る前におまじないをするらしく、信じるものがあるって素敵だと思った。

つばたご夫妻「あしたも、こはるびより」

→元々は母の本だった。畑暮らしのエッセイで自分の理想の老後はこんな感じ。

何巻か続編を所持するも一冊を残して売る。自分にとって一番必要な内容の巻を残した。

「私たちのお弁当」

→雑誌の一般人によるお弁当企画をまとめた本

お弁当が好き。。他人が何を食べているのか気になる。自分でも作ってみたりする。

増田ミリが好き理由は？

→日常のときめきから嫌なことまで、自分では言語化が難しい部分を言葉と絵にして作品にしてくれているところが好き。共感できる。

→増田ミリの作品を全部持っている時もあったが数冊残して売る。

なんで売っちゃたの？

→最近出版された本を多く残して今に至る。昔の作品は文句が多いが、最近は作品としてうまく消化されていて、日常のモヤモヤなどがクリアに表現されているため。よりポップな感じ。

資格の本（宅建、TOEIC）

→取るうと思って購入、不動産に強い、院試に向けても...

TOEICブックカバーが裏返し

→（中級編とかの）レベルを他人に知られたくないし、他の人のことも知りたくない。

だけど外ではカバーをつけていたいから裏返しになった。

哲学系の本が多い？「哲学用語図鑑」

→哲学が好き

高校の時に自分は専攻していなかったため貰う

「思考の整理学」「サピエンス全史」

→なんかかっこ良くて購入

## 付録 I -4

### D/インタビューメモ

ふくろうの置物かわいいね

→太宰府近くの店で、目があった気がして購入

梅佳代さんの写真集好きなの？

→大学の授業、総合実習でおじさんを描いた時、須之内先生のおすすめで購入

→ウメップ（うめかよのスナップだからウメップ、そういうことか！）二冊目も購入

老若男女のスナップ、表情

大学2年生頃から読書を始める

集中すると瞬きを忘れてドライアイになる癖（スマホのせいだ！）

本読もうかなと思い始めた。

高校の友人のおすすめされた鹿の王・百年法から読んでみる。

読み終わった時、特に連絡を取っていなかった友人に報告（達成感）

読む本の選び方は？

→他人の考え方や生活に興味「東京タワー」「松本の遺書」「第二図書係補佐」

→映画化された書籍

→又吉直樹「第二図書係補佐」の中で紹介されていた吉本ばなな「キッチン」を購入

が、なんか考え方とか洗脳されてしまいそうで中断

佐野さんが教えてくれた豆知識

EXIT兼近は又吉直樹「第二図書係補佐」を読み芸人を目指した

この中で一番好きな本は？

→恩田陸「ドミノ」

前に読んでいた本が難しく、この本が読みやすく感じたのかも。

映画っぽくて読みやすい。

どういうこと？

→文学は比喩表現、この本は事実だけを述べている。

松本人志「松本の遺書」

登場人物が多いのにわかりやすい

伏線が沢山貼られている

キースヘリングの作品集は芸森の展示に母と行った際に、母に買ってもらう。

## 付録 I -5

### E/インタビューメモ

ZINE多いね！

→洋服ブランド・シルクスクリーンの作家さんのもの。急に思い出して開いてはじっくり読んじゃう。

購入経緯とかは？→古本屋行って見てその時に興味のあるものをビビッと買う。心が疲れると、古本屋に行かなきゃ！っていう衝動に駆られる。

古本が好きなの？→匂いや、たまに挟まっているメモなどから感じる痕跡が好き。

#### 購入経緯

→気分がいい日も本を買いたくなる。（気分が良い＝旅行中とか）

→好きな人が見ているものを買う（「ティファニーで朝食を」は村上春樹が勧めていたから購入、特集雑誌でそれを知る）

→図書館で読んでから購入、決め手は文章の流れ、どんな気分になるか、人物へ共感できるか。

・村上春樹は雑誌の特集の買うくらい好き、人物にも興味がある。

翻訳も日本語が素っ気なくなっていない感じが好き。

本を置いてある場所に決まりはある？

→机の右側に毎日読むものを置く癖がある。現在の自分に精神テンションに近いものが置かれているかも。

→段ボールの上は、借りている本。（わかりやすいように）

「配色の教科書」→なんか学ばなきゃと、やる気があるときに購入。

知識の量がすごい、なんでそんなに自然に出てくるの？

→本の内容が自然に自分に取り込まれている感じ→パンク好き、フェミニストに興味を持つetc

買った本のカバーを手汗で汚したくないから、中身だけ持ち歩く。

辞書は使うことある？

→紙で言葉を引くことが好き。小学校の時はよく辞書で遊んでいた。

「DIY」「ダークWEB」

→生きていく上で真似したい内容の本。SNSをフォローしている人が紹介していて存在を知る。

## F/インタビューメモ

CDが沢山あるね、実家から持ってきたの？

→実家の自分の部屋が姪っ子のお部屋になるため、置いてあるものが処分されちゃうから札幌に避難した。

絵本があるの気になる。

→母と自分が好きなもの。好きな三冊だけ札幌へ持ってきた。小学生の時に袋にお金を入れて購入するやつ。

「つみきの家」：絵が綺麗で好き。

「まほうのかさ」：絵とストーリーが好き。いつ買ったかわからないが、作中に出てくるような虹色の傘がずっと欲しい。

「めっきらもっきら」：小さい頃図書館で何回も借りていたもの。

札幌にきてからやっぱり欲しいと思ったことと、姪っ子も生まれるしのタイミングの合致で購入。

寝れない時に読む本

→「クマのプーさん」「星の王子さま」

心が穏やかになれる。他にも実家から持ってきていたけど、卒業後の引っ越しを見越して実家へ送り返す。

プロフ帖懐かしすぎる！→処分に困るので...と、住所とか知りたい時に意外と便利。

すごく綺麗にファイリングされてるものが多い

→写真ファイルにはFCの会報。大きなファイルには雑誌や映画のチラシの切り抜きを収納。

→大学などの大切な書類は、ネームタグ付きのファイルで保管。

アイドル関係

→雑誌の購入基準は好きなアイドルが載ってること。

「tarzan」「anan」は平成ジャンプの山田くん、知念くん。

「M girl」：蜷川実花が撮影した山田くんの表紙。写真が最高だったのと、自分の写真の勉強になるかなと思い、メルカリで購入。ポートレート作品が好き。

## 付録 I-7

### G/インタビューメモ

どうやって小説買う？

→友達のおすすめか、表紙買いが多いかも  
作者縛りはない

表紙買いの基準はイラストの好みとか？

→昔は面白そうってなって買うことが多かった

ラノベが多いね

→小学三年生の時の担任の先生が、学級文庫に自分の本を持ってきてくれて、そこにラノベがあり、読み始めたのがきっかけ

小三からラノベは玄人っぽい、デュラララってラノベ原作なの？

→だと思ってるんだよね、6.2.3.5巻ってわけわかんない並び方だ..

並べ方とかにこだわりはないの？

→なんか案外適当に

絵の資料としても扱っているから、巻数とか関係なく置いちゃう。収まれば良い。

一番読み返してる本は？

→一回売ったがもう一回買った「ダンダリアン」  
一回一気に売ったけど、また読みたくなって買い戻した。  
小3の担任が持ってきてくれてたラノベが実はこれ。  
これに限らず、大体の本は2.3周読む

東川篤也面白いよね→これは学園ものなんだけど、感情移入できるから学園ものが好き。

読みながら感情移入するタイプなんだ、それともいつもは作業的に読むタイプ？

→基本的に感情移入しちゃう。

登場人物がお爺ちゃんとかだと自分と状況が違いすぎてしづらいけど、学生ものは結構する。  
本で泣くタイプ。

ラノベ全盛期は？→中学生くらいはオタク全盛期。Twitterとかに触れた時期。

ここまで話してもらってきたけどまだ沢山あるね

→家全体で2000冊くらいある。家族で共有の部分も。

漫画も多い、漫画って揃えるの大変なのに揃えててすごい、最終巻まで買うタイプ？

→結構飛び飛び。

友達に借りて読んでいたやつ、好きなキャラが出てくる巻数だけとかを買うこともある。

漫画はどういうきっかけで買う？→表紙の絵で買う。



## 付録 I-7-2

### G/インタビューメモ2

高専時代、お金の余裕ができたときはジャケ買いする気持ちで書店へ行き、5.6冊まとめて買っていた。

アニメ化されたものとかは見る？

→アニメは見ない。

映像をあまり見ない。漫画は自分が好きなところで止められることができるから好き。残りのページがわかるのも好きで「あとこれだけ（のページ数）でもう終わってしまうの!？」と驚きがあるところが良い。だから電子書籍よりも紙書籍派。

（参考書などが並ぶ棚を見て）勉強好きなの？

→勉強も好きだし、ノートを埋めることが好き。

漢字が好きなのもそういう理由かな

「君の臍臓を食べたい」に英語版があるの知らなかった！

日本語版もあるのに、なんで英語版もあるの？

→英語も勉強したい！気持ちと、きみすいを好きな気持ちがあ致した時に購入。

でも結局眠れない日の睡眠導入剤に...

辞書がなんでこんなにあるのか？辞書好きなんだけ

→バイトの給料を辞書に突っ込むくらい好き。

どういうところが刺さるポイント？

→適当に開いた時に、そのページに乗っている言葉が全部知ってる言葉な訳がなくて、初めて知る言葉が楽しい。ちゃんと見たものにはマークしていく。

漢検のための辞書もあるね、漢検をとったきっかけは？

→親が資格を取ったほうが良いという方針で、漢検を取り始めた。

→実家から澄川に夏目漱石「こころ」だけを好きだから持ってきている

こころが選ばれたのは？

→内容が好き

昔の文学が好きなの？

→ていうよりは、「こういうの知らないな、自分」と思ったことが始まり。

世の中に名作として残っていて、他の本にも出てくるくらいのものなのに自分は知らない。

読まないとな（この日も蟹工船を借りていた）

文中の漢字とかも難しかったりするから良い。

「いいビルの世界」気になる。建築関係で買ったの？

→高専から建築をやっていく中で、建築を好きとあまり思ったことがなかった。

好きなところを探した結果、配管とかが好きだなと思って、ビルについている配管を見るために購入。課題の読書体験機もこれで書いた。

## H/インタビューメモ

朝井リョウの本が多い、好きなの？

→中学、高校時代の朝読書のために購入。小説を読むことが嫌いだが、「桐島、部活辞めるってよ」を読んで以来、朝井リョウの顔が好きで続けて購入している。

→「何者」は難しく、少しめくって断念してしまった。

恩田陸「夜のピクニック」は味のあるビジュアル、結構読んでいるの？

→高校時代の朝読書用に購入。毎朝リュックに入れて持ち歩いてきたため、このようなビジュアルに...

「超現代語訳 戦国時代」

→受験シーズンに地下鉄で読むことを見越して購入。結局読まなかった。

形から入るタイプ。まず買ってみるが、辞めちゃう。

三冊ずつある漫画は何？

→映画の特典。特にワンピースは、毎年父、兄、自分の三人で見に行くため特典も3冊ずつある。

→アニメや漫画が好きということに少し恥ずかしさを感じる。家族としか映画も行けない。オタク気質だからこそ、オタクを隠してしまう...

漫画たくさん！！揃えるの大変じゃない？

→ワンピースは家族で好きだからみんなで集めている。

→暗殺教室は、中学の時に友達からなぜか全巻譲り受けた。もらったと思っているのは自分だけで、もしかして借りパクしてる？

→アニメじゃなくて、漫画から。ジャンプの注目されている作品は読む。

漫画は読み返す派？

→ワンピースは、アニメや考察動画を見たときに〇〇編ごとに読み返すことがある。

漫画の状態すごく綺麗

→読むときは邪魔だからカバーを外して読むからかな。

最近兄の助言により、日焼け防止の布を本棚にかけている。

### I/インタビューメモ

漫画が多いね、どういう基準で購入してる？

→ゲームが原作のものが多い。手元に置いておきたくて見つけ次第購入しているから、巻数が途中からのものもある。（タオルケットをもう一度）

→安い！と思って購入したら英語版だった本

なんで？中みなかったの？

→手元に置いておきたくて、今買わないと！の精神のもと買ってしまった

アートブックと言いつつ、資料集的な存在だから、英語文も難しい書き回しで読めず...

沢山ある畠中さんのシリーズが気になる！

→父親が自分が小さい頃に読んでいたことを思い出して購入。

よく覚えていたね→ひらがなのタイトルのインパクトで覚えていた

小さい頃から本は読んでいた？→読むけど特別読むわけでもなく...

→父親が寄り道好きな人で、スキーをやっていた時に本屋などに寄っていた

→ゲームなどに興味が向かないよう、両親が本はいくらでも買ってあげるよの人だった

さくらももこを好きになったきっかけは？

→小学生の頃の担任が学級文庫に持ってきたさくらももこの本を読んで面白かったことがきっかけ。

→一番尊敬している人。憧れすぎて、自分もさくらももこエッセイのように自虐を混ぜるような会話をしてしまう。

→本は読み返さないタイプだが、さくら先生の本だけは何回も読むため売らない。

→高校時代の日直日誌を書くことを、下書きを考えてくるほど楽しみにしていた。

その週にあった自分の情けない話などを書く。ある日、特別仲が良いわけではない子に日誌を褒められたことがあり、今でも五本の指に入るほど嬉しかった。

→本の中によく出てくる「非常にくだらない気持ちである」という気持ちを大切にしている

こづかい万歳

→お小遣い制サラリーマンの話。母が買ってきたものを一緒に楽しんでいた。仕送りと一緒に送られてきた4.5巻

全員くたばれ！大学生

→大学生に対してヘイトを向けていた時に、誰かに言葉にしてほしくて「大学生 うざい」で検索をかけ、見つけた本。

攻略本はロマン

→ネットに情報が溢れた時代に神で出るのは、そこにしかない情報が載っているはず。

→発売から経つと定価よりも高くなることもあるくらい販売部数が少ない。好きだし、今手に入れておかないとの気持ちで購入する。

→小さい頃ゲームをあまりやらせてもらえなかったため、読んでやっている気持ちになっていた。宿題中にこっそり読んでいてもゲームよりバレにくい。

## 付録Ⅱ

A氏～I氏9名の本棚インタビューから制作した  
ZINEシリーズ「ユア本棚スコープ」

付録II-1 ユア本棚スコープ ver.グッチー (友人A) 表紙



## 付録 II-2 ユア本棚スコープ ver.グッチー (友人A) 誌面

### ◀ 「すごいね」のその奥 ▶

何事にも誠実に一生懸命に取り組み、いつも多くの人に「すごいね」と声をかけられているグッチー。  
今回の本棚インタビューでは、「すごいね」の奥に隠された努力、ものごとをコツコツと深掘りしていく様子が見えた気がした。グッチーってすごい！

グッチーの深掘りの本棚

ME ピアノスコアがあるけど、ピアノ弾けたっけ？

**ピアノ弾き語り 日食なつこ**  
日食なつこさんのライブに行った時、終演後のアドレナリンで購入。自分も弾きたいと思っちゃった。でも楽譜が読めず...アーティストの中で日食なつこさんが一番好き。

つい買っちゃうデザインの本

今昔妖怪大鑑 / 湯本豪一

CD 大量所持のグッチー

ME 本棚の一角にたくさんのCDが収納された箇所があった。サブスクが発達している今なぜCDを？

高校の時、友達とCDを貸し借りすることがあって、その名残もありつつ今もCDを購入している。音楽のサブス

**実例つきロゴのデザイン**  
一番読んでいる。大学の課題等でロゴを作る時に参考にする。

なるほどデザイン / 筒井美希

表紙のイラストを担当しているのりたけさんが好きで購入。でも中身はのりたけさんの要素が少なく、少し残念。

POPEYE

ME グッチーの私服の雰囲気にとても合う雑誌。雑誌は毎月発売されるものだけど、購入の基準は？

本屋行ってバラバラ見て購入することが多い。POPEYEはデザインの実践例として参考にしているもの。今持っている3冊は、絵や写真が多いものや字が多いものなど全部感じが違う。一番自分のデザインとハイツが合うのはシティボーイ2。

**Blender CG イラストテクニック**  
大澤龍一

大学の3DCGの授業が難しく、焦って購入。結局、課題制作には他のソフトを使用したため使わなかった。

幻獣キャラクター!?

**幻獣キャラクターを創る**  
テリル・ウィットラッチ

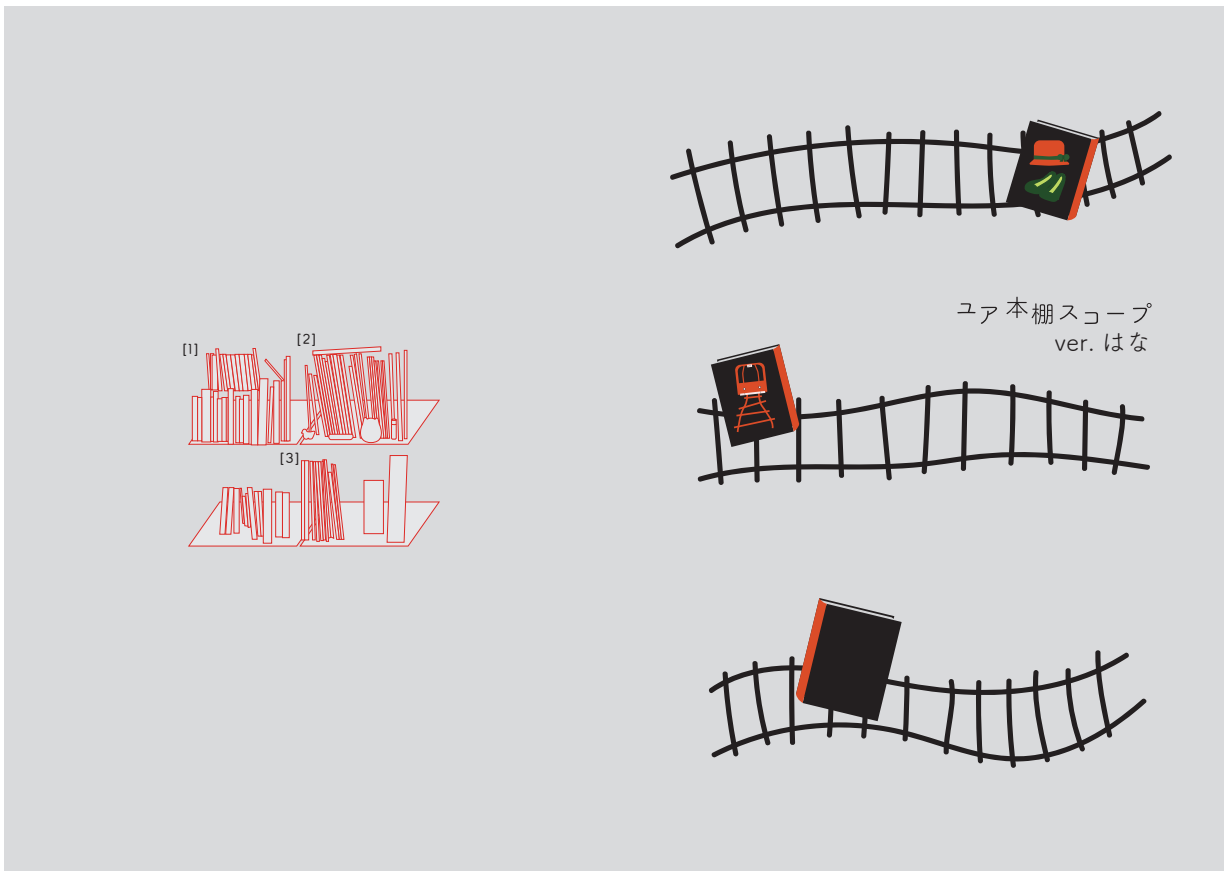
ME グッチーは卒業制作でキャラクターを描く作業をしてるけど、それに関連してる本なの？

高校美術部時代、モンスターの絵を講評してもらった際に、骨格の不自然さを指摘される。そこで勉強のために購入する。

**バンドスコア きのこ帝国**  
高校生の頃に組んでいたバンドで、きのこ帝国をやりたくて購入。



付録 II-3 ユア本棚スコープ ver.ハナ（友人B）表紙・誌面



◀ 青春 18 切符の旅と本 ▶ 大学二年生の春、青春 18 切符を利用して一人旅に出ているはな。何度か話聞いていたが、実はこの旅には「本を読む」というテーマがあったらしい。自分で持ってきた本の他に、訪れた先で会う友人たちからおすすめの本を買って、読む。電車旅ならではの、ゆったりとした時間の流れ。普段とは違う景色の中での読書は、この旅をどんなに濃いものにしたのだろうか。

出版社のインターンで、シテイボーイの特集に関わったんだよね。そこで「シテイボーイってなんだ？」と思っていた時に、代官山のツタヤで偶然出会って購入。見た目的なシテイボーイじゃなくて、なんで買ったんだろう。精神的な面でのシテイボーイに関する話が書かれていて面白かった。

「シテイボーイ」タイトルが良いね

しごとのきほんくらしのきほん 100  
松浦弥太郎  
色々考えちゃう時に初めに戻れる本。ブラッシュアップされる感覚になる。

驚き  
青春 18 切符旅で訪れた長野にて、友人に譲ってもらった本が、偶然にも愛読している松浦弥太郎のものだったことも...

ムーミンママのお料理の本  
ムーミンも料理も好きなことから、ブルックリンパーラーにて購入。中学生の自分にとっては少し高かった。

はなの愛読雑誌変遷  
中学生～  
COSSIPS  
海外ガール系の雑誌もう手放してしまっただけど、今でも切り取ったものを取っているくらい大好きな雑誌。  
高校生～  
ADG・GSS  
パリジェンヌに憧れる  
お母さんの持っていたコートの特集号を読んで一目惚れ。流行に捉われない質の良い服の良さに気が付く。今でもこの雑誌が自分のファッションに影響を与えている。

今日は、お日柄もよく  
原田マハ  
優しく描かれたリアルが心地良い。

はなが本を読むとき  
思考を整理する時  
頭の中がぐるぐるしている時  
息抜きしたい時

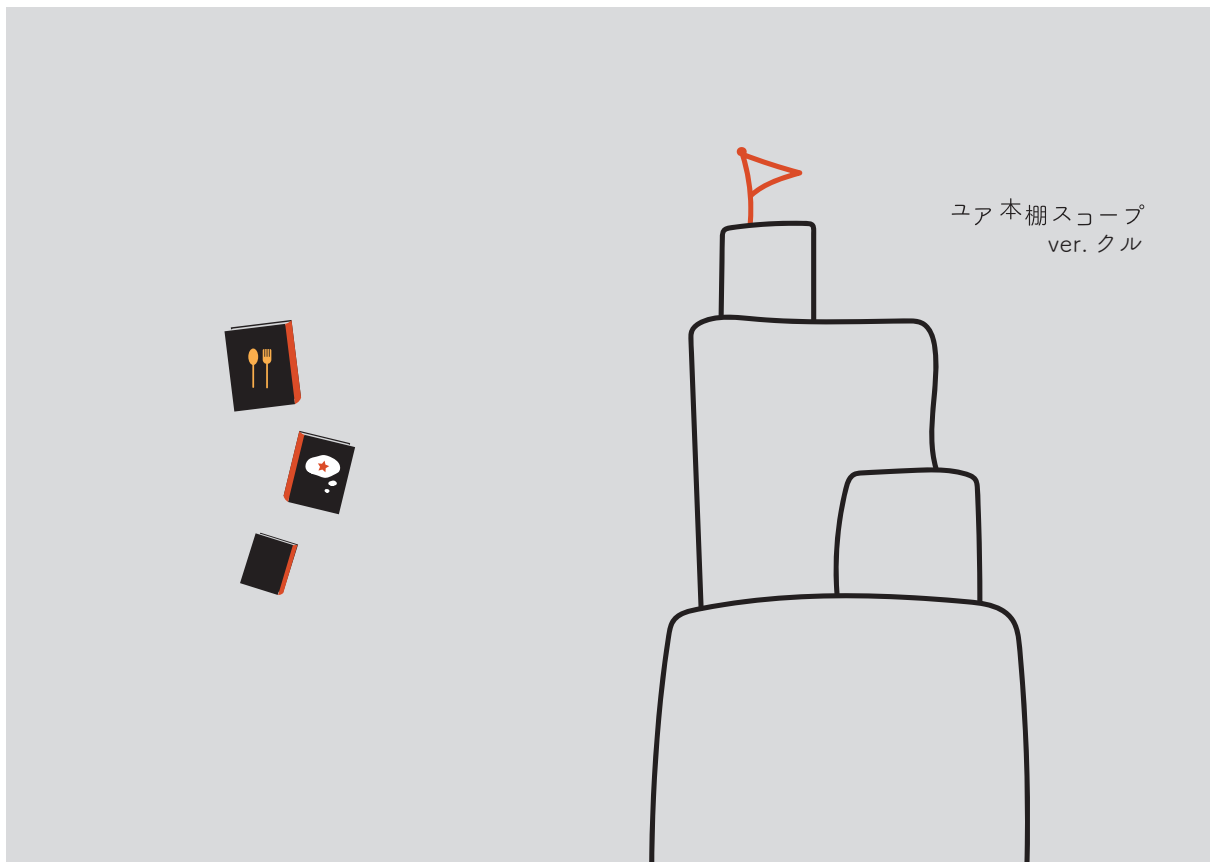
恋は短し歩けよ乙女 / 森見登美彦  
森見登美彦作品が好き。

中村佑介ぬりえブック  
森見作品の表紙を多く手がけるイラストレーターの中村佑介。森見きっかけで好きになり購入。イラスト集として取っているため塗ってはいない。

遊牧民的な感覚になれる 2冊

現在は出版社でインターン  
ずっと好きだった雑誌社で働けるなんて、夢みたい

付録 II-4 ユア本棚スコープ ver.クル (友人C) 表紙・誌面



◀ コツコツ積み重ねていく ▶

部屋がとても綺麗だったり、良い気つきがあるとメモしたり、コツコツと小さな「素敵」を積み重ねているクルちゃん。今回の本棚インタビューでは、そんな「素敵」の一部を覗くことができた。

**Lily 日々のカケラ / 石田ゆり子**

石田ゆり子さんのセンス、他人を気にしないなどの考え、暮らししている部屋が好き。石田さんは寝る前にするおまじないがあるらしく、信じるものがあることの良さに気が付く。

**私たちのお弁当 / クウネルお弁当隊**

一般人のお弁当を紹介する雑誌の連載をまとめた本。お弁当を見るのがなんか好きだし、どうい人がどういものを食べているのか気になる。

**ME** 読む本はどうやって選んでる？

こうなろうと思ってる本が多い。自分に似ている本というよりは、指針としたい。理想としたい内容や筆者を求めて購入することが多い。

**ME** 哲学に関する本がいくつかあるね

**哲学用語図鑑**

もともと哲学が好きだったが、高校では論理の授業を取ってなかったため、受験で論理を使った友人から譲ってもらった。

**思考の整理学 / 外山滋比古**

**サイエンス全史 / ユヴァル・ノア・ハラリ**  
なんかかっこよくて購入。



**宅建士の問題集 / 滝澤ななみ**

宅建士の資格を取りたいかもと思いついた。まだやってない。大学院の試験に向けても見ておきたいかもと思いついた。

ブックカバーが裏返しになっている？

大学院の試験で使う TOEIC の本。非表紙にはレベルが書いてあり、外出先でカバーを付けたけれど、自分のレベルを知られたくないことから、ブックカバーを裏返しに。他の人のレベルも知りたくないかも...

他の人が考えていることに興味がある

他の人が感じるものに興味がある



**ちょっとそこまで旅してみよう**

**考えごとしたい旅 今日的人生1・2**

**益田ミリ**

一時期は全作持っていたほど、益田ミリ作品が好き。自分では言語化することが難しい、生活の中で感じるときめきや嫌なことまでを、優しく言葉にして作品にまとめてくれている。

現在本棚に残しているものは、比較的新しいもの。最近の作品は昔の作品よりも、益田さんが生活の中で感じてきたまやまやなどが、明るくクリアに消化されていて好き。

**あしたも、こはるびより**

**つばた英子・つばたしゅういち**

お母さんから譲り受けたもの。つばたご夫妻の晩年の日々を綴ったエッセイで、こんな暮らしが自分の理想の老後。シリーズもので何冊も所持していたが、今は自分に一番必要な内容の巻だけを残している。

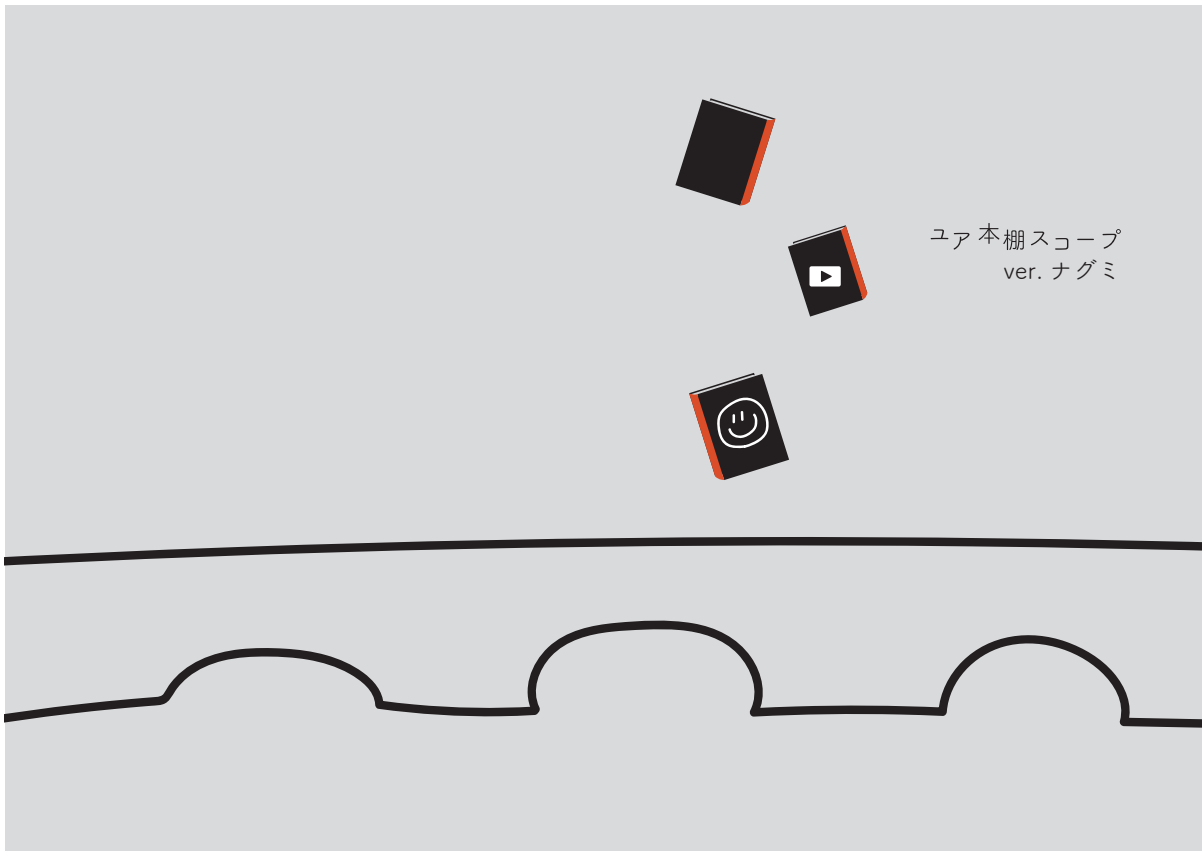
**ME** これが「ミニマリストクルちゃん」のらしさ！？



270 思想の本が多いなあ



付録 II-5 ユア本棚スコープ ver.ナグミ (友人D) 表紙・誌面



◀ 人から繋がる、自分に繋げる ▶

インタビューを通して、ナグミの本棚から感じたのは「人から繋がったもの」と「自分に繋げているもの」。人に教えてもらった本を読んだり、自分の制作のヒントとなったり、素直に多くを吸収できるナグミのことがみんな大好き。

ナグミが作る映画に感じる「人間の温かみ」は、普段彼女自身が周りに分け与えているものなのかも...

読む本はどうやって選んでる？

- ・筆者の考え方や生活が見えるもの。
- ・映画化された作品の原作。

一番好きな本はどれ？

① **ドミノ / 恩田陸**  
ドミノの前に読んでいた本が難しくて、読みやすく感じた。映画っぽい本だった。

② 映画っぽいとは？  
文字は比喩表現が多いイメージだけど、この本は映画みたいに事実だけが述べられている気がする。  
映画好きのナグミならではの感想

③ **「松本」の「遺書」 / 松本人志**  
登場人物が多いのにわかりやすく読みやすい。伏線がたくさんはられているところが好き。

④ **「松本」の「遺書」 / 松本人志**  
「松本の遺書」  
東京タワー オカンとボクと、時々、オトン  
リリー・フランキー

⑤ **「松本」の「遺書」 / 松本人志**  
なるほど！

⑥ **「松本」の「遺書」 / 松本人志**  
大学の授業課題で街のおじさんを観察していた時に、先生に参考にするといっておすすめされて購入。  
若者男女問わず表情豊かに撮られていて、魅力ちなみに梅佳代のスナップだから、「ウメツ」

⑦ **「松本」の「遺書」 / 松本人志**  
「ウメツ」 / 梅佳代  
男子 / 梅佳代

⑧ **「松本」の「遺書」 / 松本人志**  
「鹿の王 / 上橋菜穂子  
百年法 / 山田宗樹  
「そういえば」で読み始めた

⑨ **「松本」の「遺書」 / 松本人志**  
「キッチン / 吉本ばなな」  
第2図書館補佐で紹介されていたことから購入。途中まで読んでたけど、なんか考え方に影響を受けすぎてしまい途中で断念。

⑩ **「松本」の「遺書」 / 松本人志**  
「女の国の星 1・2・3」  
「カラオケ行こ！」  
「夢中さ、きみに。」 和山やま  
和山やまのシュールなお笑いが好き。

⑪ **「松本」の「遺書」 / 松本人志**  
「サタデーナイト・フィーバー」  
大好きな映画。

読書をするようになったのは大学2年生から

読書を始めたきっかけは何？

集中するとつい寝きも忘れてしまうことから、ドライアイに...

スマホ離れたい本、読もうかな！

筆者の考えていることが見えやすい本たち

インタビュー中にナグミが教えてくれた豆知識  
お笑いコンビ EXIT の泉近は文芸通の「第2図書館補佐」を読んでお笑い芸人を目指したい...

【松本】の「遺書」 / 松本人志  
東京タワー オカンとボクと、時々、オトン  
リリー・フランキー  
第2図書館補佐 / 又吉直樹

キッチン / 吉本ばなな

女の国の星 1・2・3  
カラオケ行こ！  
夢中さ、きみに。 和山やま

サタデーナイト・フィーバー  
大好きな映画。

付録II-6-1 ユア本棚スコープ ver.アオイ (友人E) 表紙



ユア本棚スコープ  
ver.アオイ

付録II-6-2 ユア本棚スコープ ver.アオイ (友人E) 誌面



◀ 混ぜる、再解釈 ▶

アオイちゃんとの会話では「この前読んだんだけど」という言葉をよく耳にする。今の状況に合わせて、自分が持っている視点を分け与えてくれるのだ。

私から見たアオイちゃんは物知りで世界が広い。本や映画をたくさん知っている。きっとアオイちゃんの体内では、それらから得て取り込んで、自分と混ぜ合わせたものたちが、大切に保管されているのだ。そんな仮説を頭の隅に置きながら、インタビューを行った。

古本屋へ行く

心が疲れている時、古本屋へ行かなきゃ！という衝動に駆られる。そしてその時に興味があるものをビビッと購入する。

ME 古本のどういふところが好き？  
匂いと、たまに本に挟まっているメモや書き込みが好き。

ME ZINE がたくさんあるね。

ここにある ZINE は洋服のブランドが出しているものや、シルクスクリーンの作家さんの作品など。急に思い出して開いてはじっくり読んじゃう。

好きなアーティストの個展に行った際に図録などをよく購入する。手元に置いておきたいという気持ちから。

はじめての DIY  
何でもお金で買えると思うなよ

毛利嘉孝

SNS でフォローしている人が紹介していたことから存在を知る。生きていくうえで真似したい内容の本。

配色の教科書

何かを学ばなきゃ！とやる気があった時に購入。

ティファニーで朝食を  
トルーマン・カポーティ

村上春樹の日本語訳が  
素っ気ない感じじゃないところが好き。

好きな人が見ているものって気になる

女パンクの逆襲 フェミニスト音楽史  
ヴァイヴィエン・ゴールドマン

フェミニストキルジョイ  
サラ・アーメッド

パンクやフェミニストに興味を持つ。  
ここで読んだ内容が自分の中に自然と取り込まれている感じ。

街とその不確かな壁 / 村上春樹

雑誌の特集号を購入するほど村上春樹が好き。

机の右側に置かれた本たち

アオイちゃんが本を買うとき

気分が良いとき  
(気分が良い=旅行中とか)

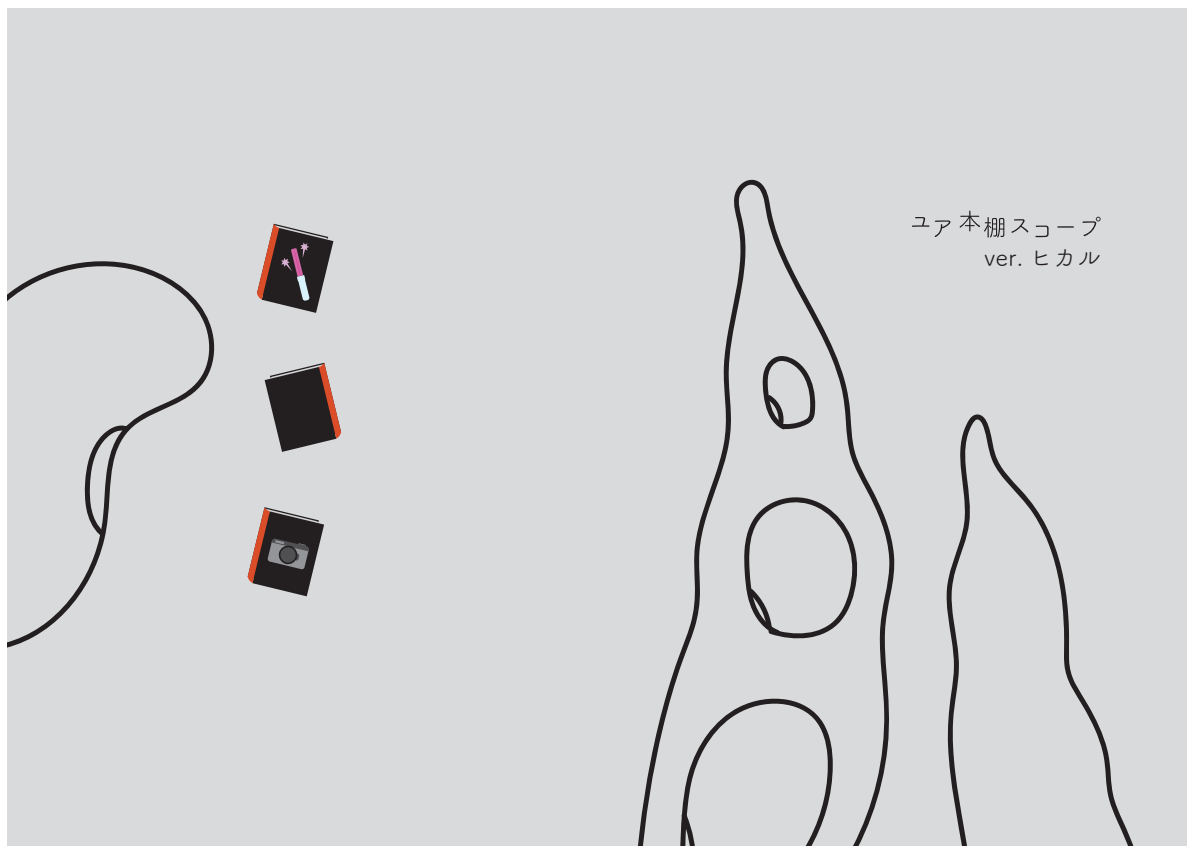
図書館で読んでみて  
文章の流れや読んでいる時の気分、  
人物への共感などが気に入ったとき

ME 辞書もよく使うの？

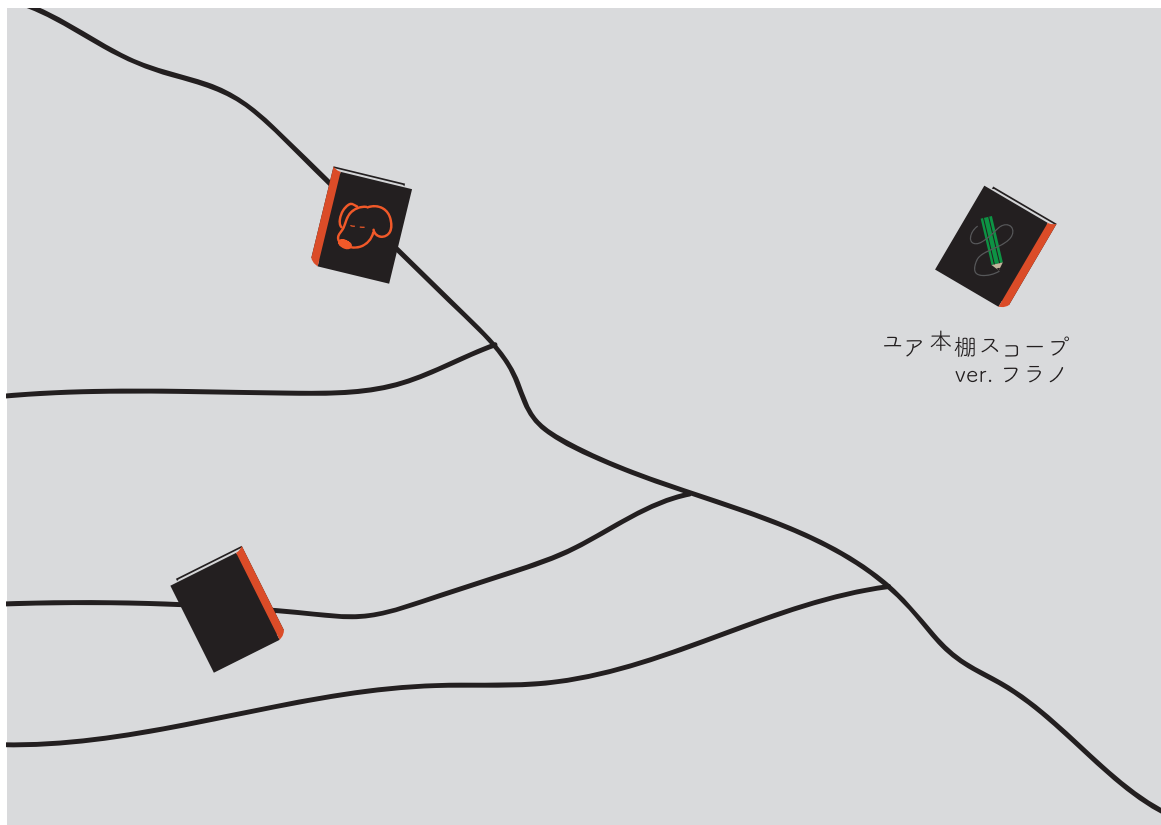
紙で言葉を引くことが好き  
でよく使う。小学生の時は  
よく辞書で遊んでいた。

机の右側に毎日読んでいる本を置く癖がある。  
この本は今の自分と精神のテンションに近い  
ものたち。

付録II-7 ユア本棚スコープ ver.ヒカル (友人F) 表紙・誌面



付録II-8 ユア本棚スコープ ver.フラノ (友人G) 表紙・誌面



◀ ゆっくりじっくり ▶ 制作に対する熱意とストイックさにおいて、誰もフラノちゃんに勝つことはできない。そんな姿の裏に、今回の本棚インタビューを通して見えたのは、じっくりと学ぶこと、知ることを純粋に楽しむ気持ち。フラノちゃんの興味の向く先をもっと知りたくなる、モア本棚スコープである。

**ME** 小説の購入基準は？  
友達のすすめが、表紙買いが多い。

**学ばない探偵たちの学園 / 東川篤哉**  
自分の立場と似ている学園ものは感情移入がしやすく好き。本で読むタイプ。

**ME** 漫画の購入基準は？  
表紙を見て絵が好きだったら購入。高専時代は、お金に余裕ができて、沢山買うその気持ちで書店へ行き、56冊ほど買っていた。

**ME** 漢字検定を取り始めたきっかけは？  
資格は取った方が良いという親の方針から、漢字検定を取り始める。

**ME** アニメ化された漫画も多くあるけど、アニメも好き？  
アニメはあまり見ないというが、映像をあまり見ないかも。漫画や本は、自分の好きところでページを止めることができるところが良い。読みのページ数がわかるとこちらも好きで、「あとこれだけのページ数で物語が終わるの?！」という驚きを楽しむ。

**ME** ラノベが多いね  
小学3年生時の担任の先生が、学級文庫に自分の本を持ってきてくれた人だった。そこにライトノベルがあり、読み始めたことがきっかけで読むようになる。

**いいビルの世界 / 東京ビルさんほ**  
ビルについての読書を見るために購入。高専時代から建築を学ぶ中で、建築のことをあまり好きと想ったことがなかった。そんな状況でも建築の好きな所を探した結果、配管が好きだなと思って購入。

**ME** フラノちゃんのゆったり積もる学びの本棚

**ME** 参考書が沢山あるけど、勉強が好きなの？  
勉強も好きだけど、ノートを埋めることが好き。

**ME** 6.2.3.5.4って取わかんない並びだー

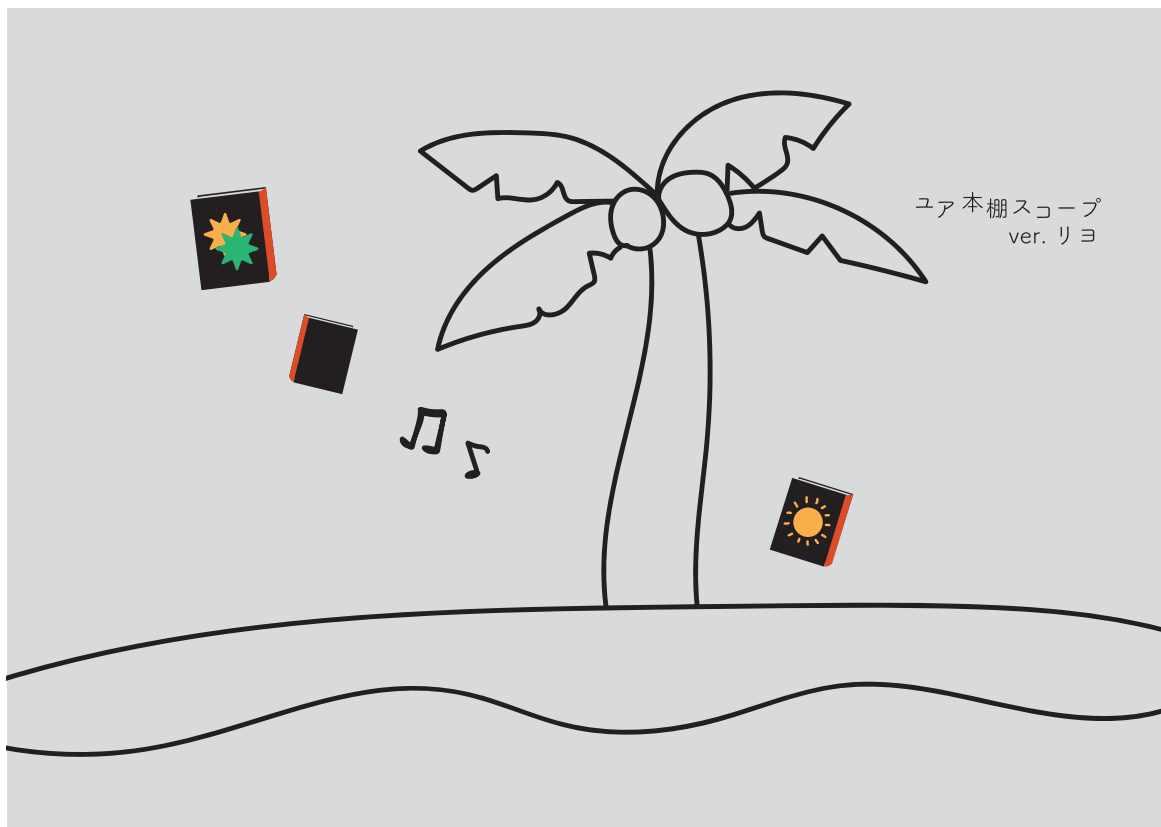
**辞典** バイトの給料を全部はぎ返すくらい辞書が好き。適当にページを開いた時、そこに載っている言葉全てを知っているはずがなくて、初めて何かを知るということが楽しい。見たものにマークしている。

**ME** 並べ方にこだわりはないの？  
なんか案外適当。漫画とかは絵の資料としても使っているから、巻数とか関係なく置いちゃう。取られれば良い。

**ダンタリアンの書架 / 三雲岳斗**  
一番読み返している本。一度売りに出したが、また読みたくなって購入した。  
小3の担任が持ってきてくれたラノベがこれ!

**ころ / 夏目漱石**  
実家から今の家に持ってきた数少ない本の1つ、内容が好きで持ってきた。「ころ」のような世の中に名作として残っているものを「ころ」の本を自分は知らない」と思って読むようになった。文中に出てくる漢字とかも難しくて良い。

付録 II-9 ユア本棚スコープ ver.リヨ（友人H）表紙・誌面



ユア本棚スコープ  
ver.リヨ

◀ 飾らない読書レビュー ▶

ME 「夜のピクニック」/ 悪田陸 は味のあるビジュアル。  
結構読んでいるもの？  
高校時代に朝読書用として購入したもの。毎日リュックに入れて持ち歩いていたから、このようなビジュアルに...

ME 読む漫画の選び方は？  
週刊少年ジャンプの注目されている作品は前と読む。アニメから入るとかではなく、漫画を最初に読む。

ME 漫画は読み返す派？  
読み返す派。特にワンピースは、アニメが漫画に遠いついた時や、YouTubeで考察動画を見た時などに、〇〇編ごとに読み返している。

ME 何者 / 朝井リョウ  
新しく、少しページをめくって断念してしまった。

ME 超現代語訳 戦国時代 / 房野史典  
受験シーズンに地下鉄で読むことを見越して購入。結局読まなかった。形から入るタイプでまず買ってみるが、なんか寝めちゃった。

ME なんで3冊ずつあるの？  
映画の入場者特典でもらったもの。特にワンピースは、毎年父と兄と3人で観に行くため、1人1冊ずつもらった。

ME 家族で観に行くのいいね  
アニメや漫画が好きということに少し恥かしさを感じているから、家族としか映画に行くことができない。オタク気質だからこそ、オタクを隠そうとしてしまう...

ME 漫画たくさんだね、揃えるの大変じゃない？  
ワンピースは家族で好きだから、みんなで集めている。

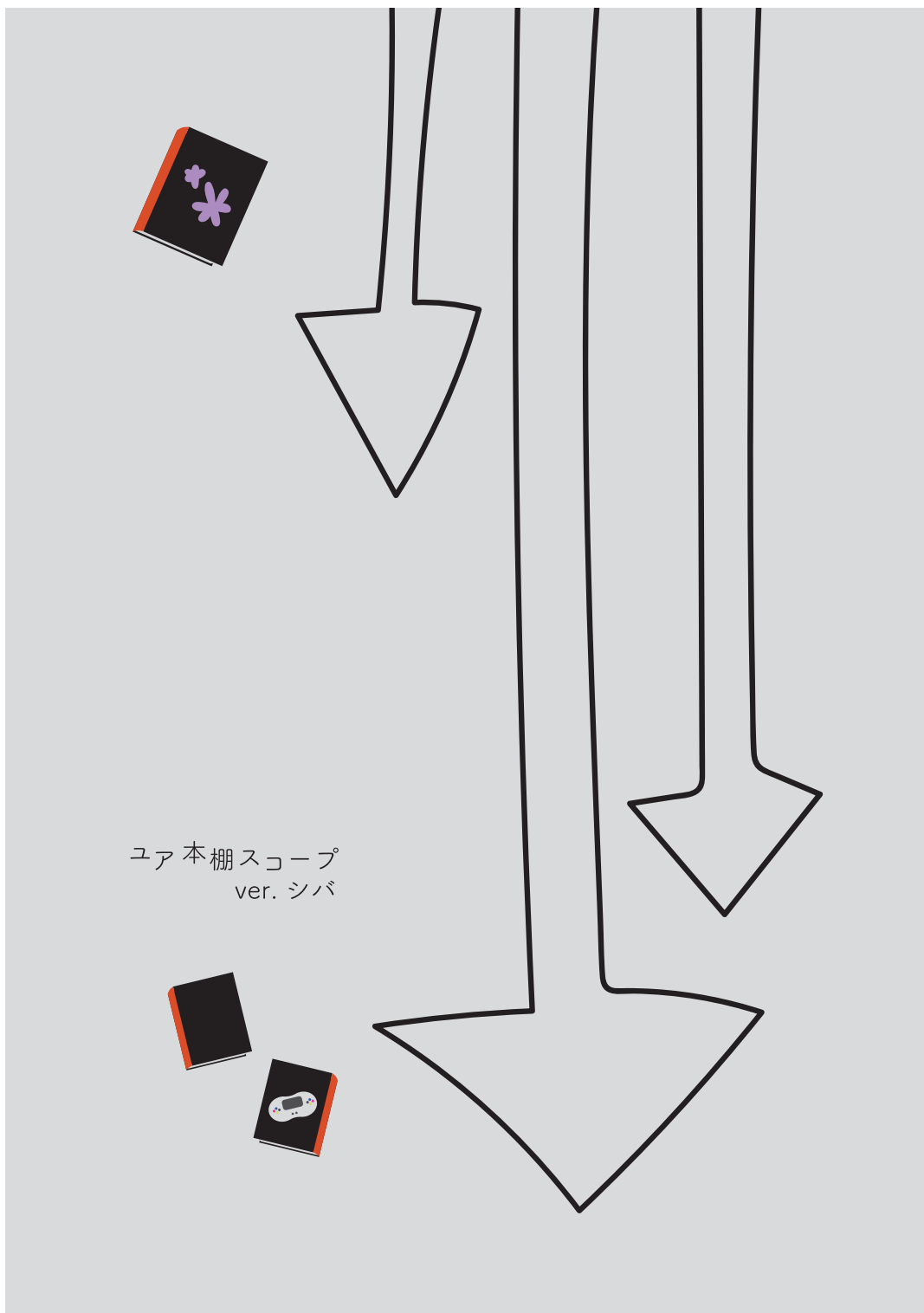
ME 漫画の状態が綺麗すごい！  
読む時に邪魔で、カバーを外して読むから。最近は兄の助言により、日焼け防止の布を本棚にかけている。

ME 暗殺教室 / 松井優征  
暗殺教室は、なぜか中学時代の友達から全巻譲り受けた。今考えてもなんで急にもらったかと思っているのは自分だけ、もしかして借りパクしてる！？

桐島、部活やめるってよ / 朝井リョウ  
朝読書用に購入した。この作品を読んできて、朝井リョウの絵が好きで、朝井リョウ作品を買って続けた。

ME 綺麗な漫画が揃っている本棚

ユア本棚スコープ ver.シバ (友人I) 表紙



# ユア本棚スコープ ver.シバ (友人) 誌面

## ◀ 追求とラフの混在 ▶

シバと会うたびに話してくれる近況は、いつも大胆で不思議で面白い。好きなものはとことん追い求める一方で、その他にはどこか無頓着な感じ。普段シバが考えていることを少しでも覗いてみたい。そんな気持ちで、シバの本棚インタビューを始めた。

## さくらももこについて

小学校の担任が学級文庫に置いていたさくらももこ作品を読んだことをきっかけに好きになる。

1 番尊敬している人。よくさくらももこのエッセイを真似て、自分も自虐を混ぜるような話し方をしてしまう。

本は読み返さないタイプだけど、さくらももこ作品だけは何度も読んでいる。

## ゲームブック

イベントでおじさんに勧められ、なんとなく購入。そこからハマってしまい自分でもシリーズを集めている。

昔から美大に興味がある

やる気を出して古本屋で購入してはやらないの繰り返し...

「くだらない気持ちである」が大切

さくらももこのエッセイによく出てくる表現。嫌なことやむかつくことがあっても、この言葉に変換することで、少し受け止めやすくなる。

高校時代、他の人は適当に書いている日直日誌を、さくらももこのエッセイのように書きたいという気持ちから、下書きを用意するほど楽しみにしていた。

すると、あまり話したことがないクラスメイトから「日誌面白いね」と褒められて、今でも5本の指に入るほど嬉しい出来事だった。自分の作ったものが褒められるなんて！

## こづかい万歳 / 吉田浩二

母が買ってきたものと一緒に読み始めてハマる。この4.5巻は仕送りのお菓子と共に母から送られてきたもの。

## UNDERTALE art book

古本屋で相場よりも安い価格で見つけ購入。帰宅して開くと英語版で何も読めなかった。あまり流通していないものだったため、今すぐ手に入れないと！の精神で焦って買ってしまった。

## ME 小さい頃から本を読む子だった？

特別読むわけでも、読まないわけでもない。父が寄り道が好きで、よく本屋に連れて行ってもらうこと。自分の興味がゲームなどに向かないように、両親が「本だけはいくらかも買ってあげる」という方針だったことが読むきっかけだったかも...

## 畠中恵シリーズ

小さい頃に、父が読んでいたことを思い出し、自分も読んでみようとして購入。ひらがなのタイトルのインパクトが強く覚えていた。

漫画が多いね。購入の基準は？

好きなゲームが原作となっているものが多い。見つけたものから購入するため巻数が揃っていないものもある。

